

単元名「人びとに受け継がれてきたもの」（4年）学習指導要領解説 p.62～66

～ 県内の年中行事：よさこい祭り ～



教材研究会 (9/30)

< 単元計画 >

時	各時間の主な問い(学習課題) ※赤字は社会的な見方・考え方	
8	よさこい祭りをどのように継承し、発展させていけばよいのだろう。	
7	よさこい祭りを継承していくために、今のような踊りのコンテストを続けた方がよいのだろうか。(本時)	
6	よさこい祭りには、どのような課題があるのだろう。	魅力 + 抱える課題
5	よさこい鳴子おどりは、どのように広がっているのだろう。	
4	よさこい祭りに関わる人々には、どのような思いがあるのだろう。	
3	よさこい祭りには、どのように受け継がれてきたのだろう。	保存・継承 努力や工夫
単元を貫く問い(学習問題)		
よさこい祭りをどのように継承し、発展させていけばよいのだろう。		
2	よさこい祭りはどのようなお祭りなのだろう。(由来、背景)	願い 健康・発展
1	県内にある古くから残るものには、どのようなものがあるだろう。	

教材分析・研究協議で出された意見

- 1 児童が、単元全体の見通しをもち、問題解決することができるような単元構成となっているか。
 ○身近に感じられる教材。地域とのつながりも考えさせる単元構成となっている。
 ●願いや人々の思い、継承の取組などの学びを、どのように発展に生かすのか？
- 2 単元を貫く問いと各時間の問い(学習活動)は、見方・考え方を働かせることができるものとなっているか。
 ○始まった頃の映像や写真などの資料と現在のようすを比較すると、歴史的経過が分かる。
 ○様々な人の声を収集する。(踊り子や商店街の人たちなど)
 ●本時の学習課題の「踊りのコンテストを『続ける』か『やめる』」を選択する活動は、児童には考えづらいのではないかな。

Point 社会的な見方・考え方を働かせることができる問いと学習活動を位置付ける (問いの例)

- 位置や空間的な広がり視点
 - ・どのように広がっているのだろう。
 - ・なぜこの場所に集まっているのだろう。
- 時期や時間の視点
 - ・いつどのような理由で始まったのだろう。
 - ・どのように変わってきたのだろう。
- 事象や人々の相互関係の視点
 - ・どのような工夫や努力があるのだろう。
 - ・どのようなつながりがあるのだろう。

< 本時の学習 >

ねらい：地域の商店街で起こっているよさこい祭りの課題を明らかにし、自分たちで改善策を考える。

学習課題：「よさこい祭りを継承していくために、チームとしての参加と会場の運営のどちらを選んだのだろう。」

教材研究会での意見を踏まえて、児童がより身近に思える学習課題に変更

- ① よさこい祭りに関する課題を確認する。(前時の復習)
 「ゴミ・騒音・交通規制・商店街で祭りができなくなっている。」
- ② 商店街の関係者なら、どちらを選択するか、自分の考えを発表する。
 チーム参加 踊り続けないと受け継がない。 継承にはどちらも必要。 会場運営 多くの人に来てほしい。
- ③ 祭りに対する願いや人々の思いを振り返る。
 ・商店街の人々：「どちらもやりたかったけれど、資金や人手不足により、やむなく会場の運営を選んだ。」
 ・作曲家：「いつの時代にも人々の心に受け入れられることが大切。」
- ④ 課題の改善策を発表する。→本時の学びを書く。



< 参観・協議の視点 >

「よさこい祭りについて、学んだことを基に、人々の願いや努力を考え、表現できているか」

事後協議で出された意見 研究協議のようす

「高知を元気にする」「歴史を受け継ぐ」など先人やよさこいに関わる人の思いを基にした発言が多くみられた。今までしっかり学んできたことが分かる。



会場運営側の情報が多かった。踊りに参加した側の楽しさや喜びなどが分かる資料ももっと必要である。

どちらの理由も、表裏一体であった。その内容から、継承・発展へとつなげていくことが大切である。

講評・講話

大妻女子大学 教授 澤井 陽介 先生

< 教材研究において大切なこと >

- ① 学習指導要領と教科書を照らし合わせる (教師の意図を明確にする)
- ② 子供目線で考える (子供がどのように思考するかを考える)



< 主体的な学びにつなげるために >

- 学習問題に関して調べたいことを 子供が自分で選ぶ
- 起源・歴史
 ぼくは、よさこいがどんな理由で始まり、どのように続いてきたのかを調べたい。
 - 人々の姿・関わり
 よさこいがずっと愛されているのは、なぜだろう。踊り子さんや詳しい人に理由を聞いてみよう。



児童の記述より

よさこい祭りにはいろんな人の思いや願いがこめられていることが分かりました。そして多くの方が、これからも続いていってほしいと思っています。だから、私たちの高知の伝統を守るためにも、受けついでいきたいと思いました。私たちも踊ったりして、み力を伝えていきたいです。

よさこい祭りはみんなを楽しませて、元気つけるお祭りだけど、商店街は今ピンチです。高知のみんなで協力して続けていきたい。

新聞やラジオなどでみ力を伝えたり、商店街の運営のお手伝いをしたりして、もっと楽しく元気なよさこい祭りしていきたいです。

【授業者：谷 宏美 教諭より】

授業を作るにあたり、社会的な見方・考え方を働かせるようにすること、学習指導要領の目標や内容、そのゴールに向けて各時間の学びを評価していくことを意識しました。これからの授業にも生かしていきたいです。



参加者の声～アンケートより～

商店街の方の話に、児童は関心を示していた。教師が自身で収集してきた資料はやはり大きな魅力があると思った。

学習指導要領に示されている目標に迫ることができるようにすること、子供目線で単元全体の流れを再考することの大切さを実感した。

< 授業を充実させる策 >

- ・一問複数答を心がける 発問→発言→次の児童の発言へつなげる
- ・話し合いのルールを展開する 座って発表、挙手して発言、書いたら起立→順番に発言など、発表ルールをいくつか決めておく

澤井先生のご講話から、単元づくりの流れを学ぶことができた。子供が主体的に学ぶために、疑問や予想を基に考察を深める、子供自身が調べたいことを選択できるようにする、いろいろな学習形態を取り入れるなど、今後の授業に生かしていきたい。